

'03

第九

のべおか第九だより（第323号）
2003年8月23日（土）

○発行 のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
882-0852 延岡市東浜砂町611番地2
電話 (0982)22-1855
<http://www.horita.jp/dai-9.html>

----出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

今日の練習	前回の練習	会員数	出席数	出席率	自己採点
長井先生の指導に基づいて復習	◆ソプラノ	33人	24人	72.7%	65.3点
○A(237~330小節) p.9~17	♥アルト	56人	50人	89.3%	63.7点
○B(411~654小節) p.20~33	♣テノール	22人	17人	77.3%	63.8点
○C(655~762小節) p.34~43	♠バス	26人	16人	61.5%	53.6点
-D(795~920小節) p.46~58	●合計	137人	107人	78.1%	63.0点
12月13日まであと112日					

先日の直接指導から…



@長井先生の指導（7月27日）

その付近の注意…●総合・◆ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話

（ほかのパートの注意でも関連があります。全部読んでください。）

★ 237 【お話し】おなつかしい方は9ヶ月ぶり、はじめまして！新しい方。今年の延岡の第九はどんな声なのでしょう？…変わりませんか？変わってほしいような変わってほしくないような、そんな心境で参りました。



【カンニングプレス】これ第九でもなにを歌つてもあるんですけどね、日常、自分達の合唱団で歌うときにもカンニングプレスというのは「あー、あー」ってこれじゃバレちゃうんですよ。だから私がプレスしているときにほかの人も歌わなくなっちゃったら大変だから急いでプレスをしてつなげようとは思わないで。これだけ人数がいらっしゃるんですから、自分が一人歌わなくなってしまって、隣近所が歌ってくれていますから。十分に、安らかにつないでください。

【音程】（バス）そんな気負わないで。“ド”は“ド”。…ちょっとアルトも持たしてあげて。バス

はダメみたいだから。アルトも気負ってる。真横から入って。これは第九にも役立つんです。第九のときに子音があるでしょ。その子音を発する時に音程以外の音から始まることがある。そのためにも。



…アルトはバスよりはいい音で響きあってますね。比較の問題ね。（笑）今度はバスと一緒に。…僕の耳には、まだいくらかバスは傷が聞こえますけども、アルトが助けてくれている。

もっと第九は人数を増やしましょうね。これがいいことなんですよ。5人しかベースがいなかったとします。1人、レだかシだかわからない人がいたとしますね。その人が5人と一緒に声を出すとすれば、絶対ものすごい傷として聞こえる。そんなことはありえないんですけど、100人ベースがいて、1人、レの人がいたとする。でもそのときそのレは抹殺されちゃうんです。それでその人はちゃんと打ち上げのときおいしいビールを飲んでいるんです（笑）。これが大人数のコーラスで歌うところのいいところね。ところが5人しかいないベースでこうだと、「なんであいつが美味そうにビールを飲んでいるんだ？」ということになる。

レやシの人を数ヶ月のうちにドにするのは、凄い大変なことなんです。その人を傷つけなければいけないかもしれない。集中的にその人をやっつけるわけにはいかないし、練習指揮者の人が「あああの人の声、気になるなあ」と思っても、なかなか個人的に注意はできないでしょ。そういうところがシチズンコーラスなんです。シチズンてなあ、時計じゃないですよ!、“citizen=市民の団体の”という意味。その団体の宿命なんです。オーディションがあるわけでもない、選ばれたわけでもない。そんな中でやっぱり一つの声を作っていくなければならない。



【声の響かせ方】ちょっと、口が胸にあるようにして発声しておられる。でもおでこに口があると思って出して。じゃ、胸に口があると思って出して…（笑）。ハイソサエティな生活をしていた人たちがスラム街に行ったような（笑）。この違いですよ。意識の。

もうみなさんはどうとも出せるの。スラム街の声も出せれば、ハイソサエティの声も出せる。どんな低い音でも、僕が持っている「歌唱の技法」という発声の技法にはね、「どんな低くても頭部共鳴を入れなさい」というものなのです。

たとえばオペラの中でカルメンが最後の幕のときにドンホセに刺されてのしるじゃないですか。あのののしるときにはコレ（胸）でいいんです。だからとっても特殊なときにだ胸性発声ということで、どんなに低い音でも頭部共鳴をませるということです。

…アルト・バスが“ド”テノールが“ミ”ソプラノが“ソ”。今、ミとソが3度違いますよね。だけど男性と女性とはオクターブ違いますから、実際は10度違うんです。それが立場を逆転してソプラノがミを歌いテノールがソを歌うと、6度音程という狭い音程になって、ハモりがきれいになるんです。

…あのう、“てんとう虫のサンバ”って誰だっけ、チエリッシュ。あれは低いメロディのほうを女の人が歌っていて、その上を男性がサポートする形でちょっと抑え気味にね。第九の中で柔らかく歌えるところというのは【Ihr_ stürzt…】（631～）ぐらいで、ほとんど激しいところばかりですか

ら、数ヶ月の練習で嫌になってしまいます。だから631小節からの部分のためにも、今のような練習をなさってください。



○ 238 【Freu-de!】 Freudet, 意味はなんですか。“歓喜” よろこび。

じゃあね、日本語で歌ってみましょう。「歓喜！」って歌ってみましょう。

あ、そのほうがいいなあ（笑）！歓喜というものが実感がないのかもしれない「喜び！」のほうが実感があるのかもしれない。

…じゃドイツ語で歌ってみよう。急に哲学的になった（笑）！「歓喜」「喜び」「Freude」みな同じ表情で。

…これはどこの合唱団でも一緒なんですけど、僕がやるNHK交響楽団との合唱団でも、バリトンのソロの方が“Freu-de!”ってNHKホールの上のほうまで響くように届けないといけないということで、芝居がかった表情をしますよね。その後に学生たちが“フロ・イデ”って（笑）。なんかハンコを2つ押したみたい（笑）。そのあとも“フロ・イデ”（笑）。このことはさんざん練習のときに言っているんです。意味は？って。1年生18歳の子もいますからね。“Fr-”の巻舌のこと、接頭の“F”的タイミングのこととか散々言ってるんだけども、NHKホールのどでかいところに行くと、凝り固まっちゃって“フロ・イデ”（笑）。だから、これは日常的に使う“喜び”“歓び”だと思ってください。

……表情、そして演じてください。口が、目が。

……遅い！バリトンソロを聴いてから発音しては遅い。“F”が遅いんです。なんにも言わないから、“パンパンパンパンパンパンFreude!”って出てみて。ソリストのことは気にしないで。

…もっと“F”が早く。もっとフライング気味に出てみて。バリトンソロの“de”を聴いてから“Freu-”と入ろうとしないで。自分のタイミングで“パンパンパンパンパンパンFreude!”と入るように。



★ 238 【お話し】 これは最近仕入れた新ネタなんですけど、ベートーベンさんは結構学者でいらして、普通の大学などにも行っていて、その学生時代にこの詩に出くわしていて、いつの日にかこの詩に曲をと思ったらしいんです。

……バリトンソロが216小節から【O Freunde, nicht diese Tone!…】これはもうご承知だと思うけども、“友よ、そんな音ではない！”何がそんな音ではないというと、208小節からの旋律、これは長調ですか単調ですか？この曲「第九」は長調ですか？単調ですか？交響曲第9番作品125という話は“二単調”。単調なんです。歓喜なのに！だから、208小節から出たメロディを受け、

“おお友よ、この歌は歓喜ではない”単調だから…なのです。【sondern】“そうではなくて”【laßt uns】“=let us : しましようよ”【angenehmere】“程よい・心地よい”【anstimmen,】“声をそろえる・輪する”【und freudenvollere】“freuden : 歓び・vollere : みちみちている”そしてこのバリトンソロさんが【Freude,】(238)って来たあ！…で、“フロ・イデ”（笑）。さあこれだけ言ったらどれだけ声が変わるかな？

● 257 【Dei-ne Zau-ber～】 僕が手をたたいているんだけど、遅れる！

○ 257 【Dei-ne Zau-ber】 言葉はいっぱい注意があるんだけど、一番悲しいのが“Zauber”です。

“ツァオベル”魔法の“魔力”という意味です。

……お前の“魔力が”。“Zau-ber”が大事。



★ 257 【お話し】 “おまえの魔力”…おまえって誰でしょう？ドイツ語には“あなたの”という敬語の呼び方と“おまえの”という親しみをもった友達同士の言葉づかいとあるんですが、神と自分、神のしもべである自分は神のことを“おまえ”って呼んでいいんです。そのぐらいのちかしい間。遙っちゃあいけないです。敬語だと“*Ihre*（あなたは）”になります。一番最初にみなさんがユニゾンでお歌いになるここが、フリードリッヒ・シラーの書いた一番の命題というかな、メイン・テーマです。さっきのスラムとハイソサエティですよ。その2つ（貴族と平民と）が別れ別れの生活を送っていた。それがフランス革命で貴族社会が崩壊して、皆が平等の立場になった。それははからずも“あなた”的魔力だ…と。時代が分けていたものを一つにした。その一番の眼目のところがここなんです。



……ちょっとテノールさんだけで歌ってもらえる？テノールさんは、こんなに大変なことをやってるんです。なんであんな苦労させなきゃならないんでしょう（笑）。ねえ、凄いねベートーベンって。なんであんなことをやらしたんでしょう？テノールがほかのパートと同じ音を歌ったら、ここは冴えないんですよ。なにか沈んで“Dei-ne Zau-ber…”ってなってしまう。テノールが上下して歌ってくれるから生きているんです。オーケストラが奏でているものに負けないでオーケストラを突き抜けて聞こえるのは時々テノールが上げてくれるからです。これは完全に耳の聞こえなくなつたベートーベンが書いていることですから、凄いことです。どんな音が聞こえるかということが自分で確かめられないのに。頭の中で、聞こえない耳の奥でイメージして書いたというのは僕は凄いことだと思います。…ただし、みなさんのはズレてる！（笑）特に4小節以降がズレてる。



● 258 【bin-den wie-der,～】

……“bin-den”“ビンデューン”とか“was die”“ヴァスデ～イ”ってならないように。8分音符のところが“ビンデヘン”“ヴァスディヒ”。音符を“パパ”って思って。

……男性、ちょっとねえ、僕が言ったことで、“デヘン”“ディヒ”って分けることに人生をかけている方がいる（笑）。そこまではいかない。そうなると音楽が楽しくなくなるから。

- 258 【bin-den wie-der,】 “bin”は弾いて、“wie”は長くね。“bin”は瓶と同じ。“ヴィー”これは日本語にない発音。だからこういうふう（縦・横）にイメージしてて。縦というのは瞬時、横というのは時間を持っているということね。



- 260 【streng ge-teilt; al-】 “streng ge-teilt;” 厳しく分けるの過去分詞形ですから、“（時代が賤民と貴族を）厳しく分けられた”それを神がひとつにした…ということ。
“streng ge-”って鼻濁音にしないで。“ンゲ”ってしないで。
“ge-teilt;” “ゲタイルト”。理屈をいうと “streng” の “g” は鼻濁音なんです。だけどみなさんの今のは “ge-teilt;” の “g” を鼻濁音で発音してらっしゃる。

- 263 【wo dein sanf-ter】 “wo” のところにテヌートを書いておいて。今、ここ前後の音符が全部同じ長さなんです。“wo”だけは長めにしてほしいんです。関係代名詞で中学生の時の先生が“… ところのもの…”って“ところお～の”ってとこをやけに強調していたでしょ。それが“wo”なの。



- 284 【Ja,】 ここは凄く象徴的にベースの力強さを出さなきやいけないところだから。でもすぐオクターブ降りなきやいけないじゃないですか。“Ja…”って言ってられないじゃないですか。でもすぐいなくなっちゃう。それを降りる直前までできるだけ“Ja,”
……ちょっとベースのみなさん、“ジャー”って聞こえ過ぎだな。

- 285 【wer auch nur～】 “やあやあ遠からん者は音にも聞け”の“やあ”でもないんですよ。摩擦音が欲しいんです。それから“wer”はどのパートもダメ。

……これを気にして歌ってくださってる方がいれば、すっげえ立派！“Ja”と“wer”の間に“,”がある。正直にそれを気にして歌ってる方？…おおそれは凄いや。でもそれは全体に影響を及ぼしてないです（笑）。みんなは“ヤア～ベル”って聞こえる。ソプラノは“ヤーベル”だ。“Ja,”はすぐ切っていいんですよ。“ヤ！ベル”。マイノリティの少数はのみなさん、もっと多くなるようになります。

……“wer”にマルしてください。みなさんの“のべおか「第九」”だけじゃなくて、私が関わる東京で教える「第九」でいつも僕が例に出すのが（聞き飽きているかもしれません）“般若心経”的ことをいいますよね。“観自在菩薩…行深般若波羅蜜多時…”ひとつひとつの長さが一緒ですね。最後のところの“羯諦羯諦…波羅羯諦”のところだけわずかにお坊さんが高まるよね。そして“菩提薩婆訶…チ～イン！”（笑）そういうふうにみんな同じトーンでいってますよね。ちょうどみなさんの“Ja, wer auch nur”が同じ感じなんです。で、僕がマルをつけてもらったせめ

て！… “wer”。それから “der” (290)。いっぱい変化をつけようとしなくていいから。その2つは覚えられるでしょう。

- 289 【_ wer's nie ge-】 かなり先輩諸士はできているんだけど、“nie”。これはいつも来るたびに申し上げているんだけど、ドイツ語が否定をするときに“nein”というのと“nicht”があります。“nicht”はバリトンソロの歌い出しのところの“nicht diese Tone!”(その音ではない)。この“nie”はもっと最上級の否定です。“決して〇〇ない！”という意味ですから、もっとムキになつて“nie”。



- ★ 289 【お話し】 ここは“世界みな兄弟”と言っているんです。皆いつしょじやないか、ここの場合は唯一絶対の神ゼウスのもとに…。キリスト教のお話ですからね。皆がゼウスのしもべであつて、皆が兄弟ではないか。そして“weinend sich aus diesem Bund.”それをかち得ざりしものは“涙ながらに去るがよい”。ゼウスのしもべとしていられないのだったら、この地球上から去りなさい。その“nie”です。“wer”、“nie”、“der”。ここで3つしか注文を言ってないんですよ。どうみなさんのが変わつてくださるか？

- 290 【konnt, der steh-le】 “der”をマルつけて。これが“ところお～の”って関係代名詞なんです。“der”が目立つように歌つて。
……みんなのdim.は“der”的ところからって書いてあると思うよ。みんなはその前にdecresc.してるよ。“der”はまだ強くていいんですよ。みんなは“konnt”が最高音なものだから。ソプラノさん“der”って下がつてくるじゃない。下がつてくるからdecresc.始めてるんです。でもその次から。



- 313 【Küs-se gap sie～】 テノールとソプラノの方は8分音符が2つあるでしょ。アルトとバスの方は4分音符ですから、まずそのように喋つてください。
- 313 【Küs-se gap sie】 “キュ…” ???。大変だぞ！…あの数字の“9”はどんなにみんながウムラウトを意識して口をすぼませても終わりは“ゥー”ってウになつてしまつてるんです。その“ゥー”になつちゃいけないの。最初に発音したままを。“-se”に入るまでの直前に“ウ”になつてないか!…音程が付いてもそう歌えるように。“接吻”ね。“K”的発音にもっと気持ちを込めて。
- 316 【prüft im Tod; Wol-】 “Wol-”はみなさんほとんど“ボ”になってたから。“ヴォ”。 “Tod;”でみなさん息吸うでしょ。だから“ボ…”ってなつてしまつ。息吸つても“ヴォ…”。
- 319 【und der Che-rub】 “Che-rub” (319)のsfを忘れないで。“天使”ね。
- 321 【und der～】 ここスタッカートでしょ。「もっとスタッカート」って言う指揮者もいるんですけど

ど、音符そのものが2分音符という大きな音符になりますから、僕はバウンドだと思う。“切る”“切る”じゃなくて、“バウンド”“バウンド”。

- 322 【Che-rub】 “キールプ”ね。開かないように。この次は“シュティート”って言ってらっしゃるでしょ。理屈は一緒。どちらも長母音だから、“エ”が“イ”になるの。

- 324 【Gott,～】 “Gott”はffですよね。もの凄いみなさん元気出してるんです。“Go…”の“オ”的母音、この出してる音の質量が“tt”的ように聞こえないんです。前の方の頭にねえツバきがかからってもいいから、本番のときもね（笑）。“神さまあー！”って言ってね。“神…！”じゃないで（笑）。

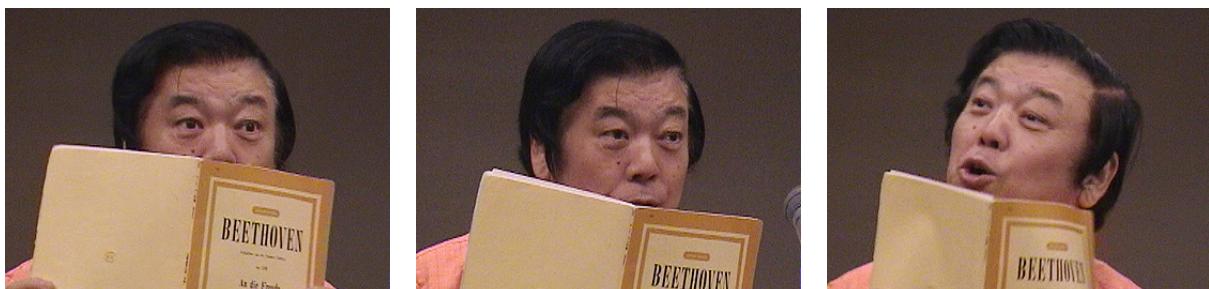


- 411 【Lau-fet,】 この前にソリストが歌いますね。そして“Lau-fet,”と合流しますね。“La…”は溜めとくんです。そうしないとオーケストラが“ジャン！”ってくるからね、同時だと“…アウフェット”って聞こえて弱いんですよ。“Laufet”というのは“走る”という意味だから。どうするかというと“ドン！”と鳴る前に“Lau-”と入るんです。

- ❖ 428 【Held_】 ここ、しっかり出して。“Held”というのは“勇者”という意味。“wie”というのは“○○のように”。

- 430 【Sie—】 そして“Sie---gen!”といえば、競馬の中継なんかで“1等になった馬”のことを言っています。“勝利”。

- 431 【--gen!】 “--gen!”って書いてあるでしょ。それを真に受けて正直に発音すると“ゲン”ですね。でも、「勝利に向かって勇者のごとく」というお芝居をするんだから、“ゲエン”もっと縦に。…いいでしょ。男らしくて。



- 543 【Freu-de,～】 “おお友よ、その音ではない！…”の種明かしはここに出てきます。だから伴奏、全部やって。525小節から…か。

「コレ違うね！」（529）って言ってるんですよ。

「こんな悲しい音じゃない！」（535）って言ってるんですよ。

「コレかもしれない!!!」（541）

で…“Freu-de,…”。これだよぉ！って歌い出したら、ソプラノ、特にひどいよ…“schö-ner”が“シェ～えネル”ってなのはないよ。口元は縦にして。“エ”も縦にして。音が高いからねえ、“エ”って開けたくなるんです。“Göt-ter-”も“エ”（縦にして）。

- 549 【ly-si-】 “E-ly-si-um,” というのが出てきますね。これ例年の12月のテープを聴かせてもらうと、かなりの比率で“エリーイ～ジウム”って聴こえるので。“y”（イプシロン）は“ü”です。
- 566 【teilt; al-～】 “Freu-de,…”って歌い出したときにfが1つ。“al--le Men-schen…”でff。2つ付いているところを100にしたら、最初はちょっと抑えないと。fとffの差を作らなければいけないから。でもそんなことはみなさん絶対できないと思う。オーケストラが盛り上げて543小節から100ですよね！だからffは120にして（笑）。だから最初からありったけ出していいから、ffは、ありったけのありったけ！…だから、“al-”の出方が衝撃的に。
- 595 【Seid um-】 ここ結構、男性がバテるところだから最初に注文しておきます。“Seid”は小節より前から溜め込んで“ザアー”ね。
……こもらないようにね。客席のほうに。“ザーア”
- 596 【schlun-gen, Mil～】 “schlun-gen,”と“o-nen!”はスタッカートがついています。



- 600 【Kuß der】 メドフォードの公演のときの指揮者、末廣先生のときの指導で、“der”を“ディール”って言い過ぎてるって指摘、記憶にある？…僕もそう思います。延岡のココは“ディール”ってなりすぎてる。“ディール”ってのは“dir”です。“dir”は“おまえに”。“der”これは冠詞ですからね。…あのねえ、開けて“イ”って言えばいいんです。狭くして“イ”って言わないように。
● たぶん言葉が難しいので、“der”って単語ですね、これを“ディール”って発音するのが凄いはやってまして、そうやると全然別の意味になってしまいますので、“デル”って言ってください。ただ、“e”的母音が“イ”に近いほうが音がきれいなので、若干狭い“e”を発音しますけれども、“ディール”って歌われちゃいますと全然違う“あんたの”って意味になっちゃいますから。意味が違うのでそれだけお気をつけください。（2000年4月9日の練習：末廣誠先生冒頭での注意）
- 602 【Welt!】 “ヴェーーーエルト”です。“ヴェーレルト”だと早いでしょ。そんなに早いと、女性が入ってくるまでも凄く空白があいてしまう。オーケストラだけしか聞こえなくなっちゃうから。3拍目の裏っかわに“エルト”が入るように。



- ♡ 603 【Seid um-】 アルト、どこの合唱団も弱めになっているんだけども、“Seid”的音、強めにね。
- 611 【Brü-der!】 男性、ここ凄く苦しいところだ。“Brü-der!”正しく喋ってください。“-der!”が遅すぎるんですよ。この位置が曖昧模糊なんです。
……あ、そんなに強調しない。“-der!”は語尾なんですから。それが歌に出たら大変だ。

○ 612 【ü-berm】 あとでね “ü-ber Ster-nen-” ってところがあります。 (650～) ここは “ü-berm” 。 “-m” ってのがつくとね場所を表すんです。ドイツ語では三格といってね、 “星の上に…神は住んでいる” って。 “-m” がないと方向を表すんです。 “あっちへ…” という。たとえば “in the garden” (庭の中) をドイツ語で言ったら “in dem Garten” (庭の中に…花が咲いてる) 花は動かないじゃないですか。 “in den Garten” (庭の中へ…誰かが入っていく) 。動いている。そういう違いがあるんです。だからこの “-m” は抜かさないで。神が星の上にあがっていくわけではないんですから。そこに住んでいるんだから。

……早い、早い！シンコペーションじゃなくて、 “1,ü-berm” なんです。

○ 617 【Va-ter】 ここも高いから、この前もプレスを手分けしてね。 “愛するお父さん” の間でプレスをとってはいけません。

○ 625 【Va--ter】 今、この “Va--ter” の前で息をしている方、圧倒的に多いので、 “Va--ter” の前で息をすわないように。もしもメンバーが固定されたらバラバラにあちこちでプレスをとるように。



♡ 631 【Ihr_ stürzt】 ここ、長調ですか？短調ですか？…短調なのに、みなさんのところだけ長調の動きをしてるのね。 “Ihr” は短調なんですから、シはりのはずなんだけど、ナチュラルなんです。

○ 631 【Ihr_ stürzt】 “Ihr” の中にcresc.があって、一回ピークをつくって、decresc.する。みなさんはdecresc.がないんだ。それでも “Ihr_” って消えちゃう人がいるんだけど、切らないでね。 “st殲zt” の音とつなげて。

…… “stürzt” の中に言葉がいくつあるんだ？6個ある！訳詩をされる方が大変なんだって。 “I love you.” といったら音3つしかいらないじゃないですか。これが “わたしはあなたをあいします” ってなるので “愛してるう” ってなる。この “stürzt” というのは “ひざまづく” という意味ね。ここに “ひざまづく” って5つの音がある。これがドイツ語だと2音で終わり。…で、ここ経験ある方はおわかりだけど、オーケストラが十分時間をくれます。

○ 633 【Mil-li-】 すぐcresc.

○ 635 【Ah-nest】 すぐcresc.



ஃ 637 【Schöpfer,】 “du_den” って上がるからかな、 “シェッフェル” ですか？テノールさん。縦に口を開いて “シオッフェル” 。 “創造主” 。

○ 638 【Welt?】 “ベ…” じゃなくて “ヴェ…” 。ベルトにならないようにね。

◇ 640 【ü-berm】 どこにcresc.があるのかな？ソプラノさんの場合は上がったらcresc.

○ 640 【ü-berm】 ほかの方もみんな（cresc.の場所）ね。

♡ 650 【ü-ber】 絶対（音程が）課題だ。いろんな母音でやってみて。言葉から離れて、強い声でやってみたり。ソプラノさんがかなり“□－”って言ってくれていますから、アルトはそれに捕われないで。のどを締めてしまうことになるから、曖昧な口をして。

……（何度も歌って）5分ぐらい前に聴いたときよりだいぶ音程が良くなった。

○ 650 【ü-ber】 まず、ソプラノの方もアルトの方も勇気が要るんですよね。指揮者が「1！」って気合いをかけてくれたらとっても入りやすいんですけど、だけどここは木管楽器が鳴っていて…ここは凄く恐くない？出るの。どのぐらいの音量で出ていいのか？隣近所がどのぐらいの音量で出ているのか？それから出した音程は正しいのか（笑）？三重苦なんです。

……女性と男性ではリズムが違いますから、自分の拍数をきちんと。伴奏は3連譜です。新しい方、ここは“ü-ber”と“-m”がないですから、暗譜するときに注意してね。



★ 650 【お話し】

……あのお、「ちょっと違う」と「とっても違う」のは「違う」（ということで同じ）なんです（笑）。「惜しいなあ！」ってのはないのね。音程は合っているのか合っていないのかどちらかです。“ド・ミ・ソ”がこんななってる合唱団があるのね！みんなで揺れればこわくない（笑）ってね。伴奏だけが揺れてないの（笑）！それでも楽しきりやいいんだって。この合唱団はそんなレベルじゃないからね。

♡ 654 【---nen.】 最近、ここ数年いろんなところの「第九」、学生もそうだしアマチュアの方もそうなんだけど、ここはアルトのほうがまずくなかった。昔はソプラノが「低い、低い！」って言われてたんだ。



★ 654 【お話し】…じゃ、10月の末にまた参りますので、そのときは終わりまで練習させていただきます。去年は早めに伺って発音とかやったんですけど、今回は基礎的なことよりも（言い残したこといっぱいあるんだけど）10個言ってほとんど忘れられるより、3つ言って全部覚えておいてもらつたほうがいい（笑）。そういう哲学で参りましたもので（笑）。練習の中で申し上げた「3つを注意してください。」というふうにやりましたので、例年より文句言てる箇所は圧倒的に少ないと思います。そのかわり今日、申し上げたことはぜひぜひ…堀田さんのお助けを借りてでも直してください。それでは、おつかれさまでした！

◆長井先生、ありがとうございます。今年も学びました。

◆長井先生のレッスンは楽しくて

とてもわかりやすかったです。

◆初めて長井先生のご指導をいた

だったらメゲるかも…と思っていましたが、ユーモアを交えた明るいご指導でした。前向きにとら

え、もっと上手になるよう、頑張ります。

◆今年初めて練習に最後まで出ることができました。やったー！

(A.K.)

◆久しぶりでなかなか高音が出ません。(あゆっこ)

◆今日はなぜか疲れましたが、練習は楽しかったです。長井先生、サイコー！(セロ弾きのゴーシュ)

◆初めての長井先生のご指導、とても楽しかったです。10月のご指導では、注意されないようにがんばります。

◆声をだそーっ！



(ビビンバ娘)

◆声が出るようになりました。へへへ♡(ECHIGO屋)

◆長井先生の指導、いつも勉強になります。

◆長井先生の言葉を胸に、発音に気をつけます。(You-You)

◆長井先生のご指導は、なあるほどと思うことがいっぱいでした。とても歌いやすくなりました。ありがとうございました。

◆今日は第1回目の長井先生の指導日。頑張ります。(S.N.)

◆感激!!言葉の学習、ドイツ語の学習が主体でそれにmelodyがついた。今日の練習でしたが、次回は国語を生かした歌い方をしていきます。(m♪)

◆毎年のことですが、迫力のある指導に感謝しています。普段の練習に来ていない人がたくさん。毎回の練習がこうだといいですね。今年も参加できて良かったと思いました。ありがとうございました。

◆大変楽しく、かつ勉強になった長井先生の練習でした。(おくまちゃん)

◆昼間はウズメ（合唱の部）の練習でしたので、少し忙しかったですね。長井先生のご指導で、また気合いが入りました。(ブンちゃん)

◆前回お休みでした。長井先生、理解はできるのに、実践は難しいですね。なんとか頑張ります。ありがとうございました。(メダカのおばちゃん)

◆長井先生のご指導、いつもとても歌って楽しいです。厳しく樂しくがモットーです。(櫻子)

◆久しぶりの長井先生のレッスン、とても楽しく、勉強になりました。(なる)

◆久しぶりの長井先生のご指導で、力が入りました。楽しいです。今日のチェックポイントを12月まで忘れないように練習します。(き子)

◆出席率が良かったですね。やはり仲間が多いと楽しいです。長井先生のレッスン、やはり、すごお~い。こんなすばらしい先生にご指導を受けられるのは幸せなことです。(Dynamite Lady)

◆今日は疲れ気味ですが、頑張ってやってきました。練習をしていくと長井先生のお話に思わず夢中で、楽しくなりました。

◆いそがしい、いそがしい。たまにはこんなふうにゆっくり茶でもすりたい…



(あんり)

◆一つ一つわかりやすく、時間があつという間に過ぎました。自分自身の課題も見えてきました。(ななしのゴンベ！)

◆いつもながら色々なお話をまじ

えながら、練習はとても楽しいです。発音、曲想、音程、忘れないようにしなくては。

◆がんばりました。



(おJi蔵さん)

◆今日は新しい指導で新鮮でした。3つは守れるでしょうから、最後までしっかり守ります。

(KK)

◆長井先生、お久しぶりです。先生のzauberで出ない声も出せたような…。(スピカ)

◆独語の発音は難しいですね。一回だけではなかなか覚えられません…。次のレッスンで同じことを指導してくださいといいのですが…(パート練習のとき)

◆今年はアルトに入れていただきました。初心にかえり、また歌いたいと思います。(史)

◆お久しぶりですね。やっと戻ってきました。どうぞよろしく。初心に戻ってがんばります。(ねずみバーバ)

◆長井先生のファイトにはビックリしました。今年は特にビシビシされて、とても感動感激しました。楽しいひととき、ありがとうございました。(アッちゃん)

◆長井先生、今日はとてもやさしかったですね。やはり高音のところ、課題ですね。天使の声をめざしましょう。(日向キルトママ)

◆次回の8月23日までに長井先生のご指導を思い出しながら復習をしてきます。

◆長井先生のご指導を受けて、発音、もう一度きちんと見直さないといけないと思いました。(ユー

ミン)

♥柳田先生、楽しみに参りました。昨夜は1時すぎ就寝。今朝4時に起床。7時40分で宮崎で墓参り。お見舞い。そして選挙。老いたりとはいえ至福のコーラスを感謝しています。

♥第九の難しさを改めて感じました。でも頑張ります。

♥貴重な長井先生の練習日、3つ宿題がある。アルトは非常に頑張らなければいけないなーと思いました。ありがとうございました。(Emily)

♥長井先生のご指導、一つ一つがとても解りやすく、また自分なりによく理解できて、とても良かった。あとは自分がどれくらい表現できるか…今からの練習に期待したい。今後の目標は歌詞が正しく発音できて歌えるようになります。(九ちゃん)

♥ありがとうございました。

♥実家に帰ってきた気分。今年度、初めて来ました。なんかうれしいな。なつかしい顔ばかり！長井先生、本当に毎回やさしいご指導ありがとうございます。いつもですが元気いっぱいになれます。

♥長井先生のご指導がとても楽しかった。(Y. N.)

♥久しぶりの長井先生の指導を受けて、改めて確認しながら歌いました。14年間使い続けている楽譜ですが、毎回同じところを注意され、まっ黒によごれています。…がうまくできない。第九は本当にむずかしいですね。(ヨッチン)

♥久しぶりに長井先生のご指導で生き返りました。第九をしているお陰ですね。せめて3つのご注意は忘れないようにします。(忘れっぽい私で少々心配ですが。)(ドウリンク)

♥初心者が回数を重ねるほど樂しくなってきています。今日の練習はすごかったです。アメもとってもおいしかったです。ごちそう様です。

♥長井先生の熱の入ったご指導、とてもすばらしく気持ち良く歌えました。もっともっと勉強することが多いです。(光ちゃん)

♥長井先生の指導、たくさん集まるといいですね。(チエリーちゃん)

♥長井先生のご指導はわかりやすく、とても勉強になりました。先生、おつかれさまでした。ありがとうございました。

♥長井先生のご指導は小さいところまで実にていねいでした。時間があつという間に過ぎました。しかし、我が歌う会の柳田先生、上田先生、今村先生のご指導もけつして長井先生に負けてはいないと思いました。

♥長井先生のご指導、素晴らしい、自分でもうまくなったような気分になります。本日のこのレッスンを忘れないで、歌っていきたいと思います。

♥第九の歌の意味が初めてわかりました。深いですね。

♥今年は語訳を書いているので、理解しながら歌えて深いものを感じる。

♥楽しかったですし、わかりやすかったです。

♥第九だけを習うだけでなく、コミュニケーションを大切にしようと思っています。何か良いアイディアがありましたら、いつでも聞かせてください。(ドリーム)

♣長井先生、大変勉強になりました。

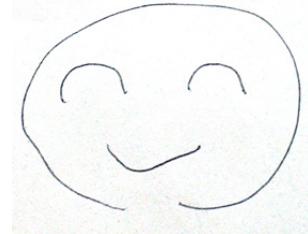
♣久しぶりの長井先生の指導、でも難しいですね。

♣おつかれさまでした。夏休みの間、再度おさらいします。夏ばてしないよう、気をつけたいと思います。

♣いよいよ蝉が鳴き始めました。

「病院にカルテ幾万蟬時雨（洋士）」長井先生のお話、いいですね。たとえ話が印象に残ります。下関の話がよく出ます。(ヒロー)

♣指導を忘れずに。



♣長井先生に教えていただくときは、緊張してしまいます。(年末のNHKの第九に関係されているため)(ねこふんじゅった)

♣よろしくお願ひします。(す)

♣“意味”がまた少し理解できましたよ！(タマ)

♣表現豊かに歌えるようになろう!!(K.C.)

♣歌詞の意味を考えながら歌えるようにがんばります。

♣練習、勉強不足で、きちんと歌詞と音が入ってなくて、はがゆかったです。次回こそは!!

♣ただ！疲れました！何でだろう、何でだろう！(K.T.)

♣具体例をたくさん出して説明していただけるので、よくわかります。パート別のレッスンも受けられれば理想であるが…。(がみchan)

♣今日で3回目。だんだんむずかしくなる。どうしよう…。

♣柳田先生の発声練習でリラックスした気分になります。のびのびと頑張ります。(Mさん)

●編集後記

次回は9月7日（日）13:30～16:30

前回の練習からしばらく期間があいてしまいました。気がつけばもう夏も過ぎようとしています。梅雨があけたらすぐ台風（実は台風のまっただ中に長井先生のビデオテープおこしをやりました）、暑い期間はいつもより短かったように感じましたが、その間の練習はいかがだったでしょうか。【munenori@horita.jp】